

## 第6回 英語の歴史と二重語（続）

猪浦道夫 (いのうら みちお)

翻訳家。横浜市立大学、東京外国語大学イタリア語学科卒業後、同大学大学院修士課程修了。イタリア政府留学生としてローマ大学留学。帰国後、ボリゴロツト外国語研究所を主宰。著書に「語学で身を立てる」[3語で話すスペイン語]などがある。DHCカルチャーセミナーの講師としても活躍中。

前回に続き「二重語」のお話です。今回は、英語の語彙のなかにある二重語を別の角度から調べてみましょう。

ローマ帝国がゲルマン民族に蹂躪され崩壊してからも、ガリア（フランス）、イベリア（スペイン、ポルトガル）、ダキア（ルーマニア）など、ローマ化が進んでいた地域では、文化的に優勢であったため、その地を占領したゲルマン民族たちは、自らの言語を捨て「ラテン語」を共通語として採用します。このラテン語は、ローマ帝国という強大な政治的「たが」が外れたため、次第に崩れて方言化が進み「俗ラテン語」と呼ばれるようになり、8～9世紀頃にはもはやラテン語の方言とは言いがたいほどになります。

そして、それぞれの地域で、イタリア語、カステイリア語、プロヴァンス語、カタルーニャ語などと呼ばれるようになってきます。なかでも特に発音の変化が猛スピードで変化していった言語が「オイル語」と呼ばれる北部フランス語です。ちなみに現在のフランスの国土は当時、言語的には大きく南北に二分されていました。それぞれの言語で英語の yes! のことを「オック」、「オイル」と発音したことから、それぞれオック語、オイル語と呼ばれ、前者は南仏語（プロヴァンス語）、後者は、パリが首都になったことから現在の標準フランス語へと発展していきます。

さて、この北部のオイル語は東北部に今のドイツ語圏の諸国が隣接していたため（スペインのピレネー、イタリアのアルプスのように国境を遮る地勢的な条件がなく地続きであったため）、長い歴史を通じて頻繁にゲルマン民族との接触が続きます。そのため、他のロマンス諸語（ラテン系言語）と異なり、ドイツ語の強烈的な音声の影響を受けて、言語の歴史上まれにみるスピードで音声体系が崩れていったのです。フランス語学習者を悩ますリエゾン、エリジョンなどの現象は、その音声変化のスピードに綴字法がついていけなかった結果なのです。

このようなわけで、他のロマンス語と異なり、フランス語にはかなりのドイツ語が混入してきているのですが、そのなかには、ドイツから英語に直接伝わった語もあったのです。

ところで、ゲルマン人の発音のなかでフランス人が不得意な発音が二つありました。ひとつは「ハ行」の子音 h ですが、もうひとつ

つが「ヤ、ユ、ヨ」、「ウァ、ウイ、ウエ、ウオ」などの半母音（または半子音）と呼ばれる発音でした。ラテン民族はこれらの音を g- をつけないと発音しにくかったのです。そのため、ドイツ語で y- や w- の音で発音されていた語がフランス語に入るとき、g- の音が語頭についたのです。これらの単語は、前回お話ししたノルマン・コンクエスト以後、「フランス語」として、英語に取り入れられます。ところが、英語には、そのルーツとも言うべきドイツ語の単語が「直輸入」ですでにもたらされていたのです。こうして、いくつかの「二重語」のペアが英語の語彙のなかに共存することになります。

次のペアを見てみてください。

| ドイツから直輸入の語 | フランス経由の語  |
|------------|-----------|
| yard       | garden    |
| yield      | guild     |
| war        | guerre    |
| warrior    | guerrilla |
| ward       | guard     |
| wage       | gage      |
| warranty   | guaranty  |
| wit        | guide     |
| wise       | guise     |

どうですか。それぞれ意味がかなり違ってしまっている語があるでしょう。yield, guild の語源になっている geldan という古英語の動詞は「支払う」が原義でした。このように、元の意味を知らないともその関連性が思い浮かばないようなものもあります。

war からは garrison, garnish などの語も派生しています。wit はもともと現代語の know にあたる動詞でした。その形容詞が wise です。warranty と guaranty というのは、偉い法律家の先生におききたところ、後者は「金銭による保証」、前者はそれ以外の方法も含む保証を意味するということでした。

最後に、これはフランス語ですが、神戸の gaufre ね、あれはもともと waffle や wafer(s) と語源的には一緒なのです。ゴーフルにワッフルにウエハース——確かに、何となくわかる気がしますね。